

教科名	美術科
-----	-----

学校番号 (23) 学校名 (上石神井中学校)

○現状分析 (日常の学習活動から見られる学習の定着状況)

1年	美術のはじまりについての講義を受ける姿勢や、素描の基礎的な実技への取組から、生徒のほとんどに表現や鑑賞の学習に高い関心みられるが、一部授業規律を守りつつ制作する姿勢を身に付ける必要のある生徒がみられる。素直に自分の感じたことを表すことができる一方、題材の意図に則って技能を生かして表現することに課題がみられる。
2年	写実的なイメージを転写し版画の版にする製図作業は、完成度と進度ともに差が出やすい。発想・構想の面では構図のトリミングに手間取る生徒が多い。新聞記事等から対象となるイメージを選ぶ際には各自の興味・関心に沿ったものを見つけてくる意欲がある。道具忘れによる作業停滞が目立つので対策が必要である。
3年	<p>仏像の特徴や歴史的背景についての学びから、楽しみながら知識・理解を得ることができた。しかし、その知識を元に行う「自分だけのアイドル (偶像)」制作では、制作過程を事前に説明しながら理由と共に条件を挙げていても忘れてしまい、次の工程で難易度の高くなる完全オリジナルのデザインが多い。そのため、時間内に作品を完成させられない生徒が見られる。また、その事に危機感を抱かない生徒もいる。デザイン構成の自由度の高さは保ちつつ、計画的に自身の進捗状況を管理すると共に、設定や条件を守る姿勢を養いたい。</p> <p>使った道具の片付けや掃除をせず汚れたまま放置する生徒が多く、再度注意して意識を高めたい。</p>

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律を守り、積極的に取り組む姿勢を継続させる必要がある。</li> <li>生徒の意図を適切に表現させるために、基礎的・基本的な学習を定着させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>忘れ物をしない、時間を守って行動する、説明をきちんと聞くなどについて全体に呼びかける。</li> <li>習熟度別に技術的な指導を板書で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の発達状況に応じてできることから具体的な対策を生徒と相談して身に付けさせる。</li> <li>制作する上でのつまずきについて個別のアドバイスを実施する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想や構想の段階で全体での活動を行い、生徒間の進度の差が大きくなるようにする必要はある。</li> <li>作品を制作するだけでなく、鑑賞の力を身に付けさせ学びを深めさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループでの発表や話し合い活動を通して発想を広げる時間をつくる。</li> <li>自分が感じたことや考えを文章にまとめたり、話し合ったりする時間を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアスケッチの段階で補習を実施し、遅れている生徒の進捗状況を調整する。</li> <li>美術作品を基に発展的な表現技法について感じ取らせ、制作に生かすように促す。</li> </ul>

3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件や提出期限などの条件を守って完成させられるよう各自が見通しをもたせる必要がある。</li> <li>道具の片付けや掃除まで含めて、制作に責任を持たせる意識を育てる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェックシートを配布し、各自の制作進度を自己管理させる。</li> <li>掃除の時間を多めに確保し、逐一確認して作業を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本を充実させ、引き出しの数を多く持たせる。</li> <li>条件を口頭と板書で済ませず、自分でメモを取らせる時間とシートを用意する。</li> <li>道具の手入れや管理も、制作で重要な過程であることへの理解を身に付けさせる。</li> </ul>
----	---	---	---